南島原市文化財調査報告書　第16集

# 大 坂 遺 跡

― 市道川原新切線道路改良事業に伴う発掘調査 ―

２０１８

南島原市教育委員会

南島原市文化財調査報告書　第16集

# 大 坂 遺 跡

― 市道川原新切線道路改良事業に伴う発掘調査 ―

２０１８

南島原市教育委員会

# 発刊にあたって

このたび報告書を刊行する運びとなった大坂遺跡は，南島原市深江町の道路改良事業に伴い，平成29年５月に実施した試掘調査によって新たに発見されました。

南島原市では，近年開発事業に伴う緊急発掘調査が増加しており，それによって地域の歴史を知る上で欠かすことのできない成果が次々と上がっております。しかしながら，開発によって本市の貴重な財産である埋蔵文化財が現地から失われるのは誠に残念なことであり，文化財の保存・活用を担う立場としていっそう身が引き締まる思いであります。

本書をもって，文化財保護行政への理解や，地域を愛する心を醸成する一助となることを願います。

最後になりましたが，調査を実施するにあたり地域の方々や事業関係各位に格別のご配慮，ご協力を賜りました。心から感謝の意を申し上げます。

平成30年９月30日

南島原市教育長　永田　良二

# 例　　言

1　本書は，大坂遺跡（長崎県南島原市深江町所在）の発掘調査報告書である。

2　調査は，南島原市が事業主体である市道川原新切線道路改良事業に伴って実施した。

3　調査は，長崎県南島原市教育委員会が主体となって実施した。

4　試掘調査における写真撮影及び土層実測図の作成は，酒井希望が行った。

5　本調査における写真撮影は，小川慶晴，竹村南洋が行った。また，平面図及び土層実測図の作成は，（株）オリエントアイエヌジー南島原営業所に委託した。

6　遺物の洗浄・注記などの基礎整理は池田久美子，高木加奈代が行った。遺物の実測，拓本，遺物実測図のトレースは湯田由美が行った。調査に関する製図は小川が行った。遺物の写真撮影は本多和典が行った。

7　本書における遺物・図面・写真等は，南島原市深江埋蔵文化財整理室で保管している。

8　本書の執筆は本多，小川による。編集は小川による。

# 本 文 目 次

第Ⅰ章　位置と環境（小川）　……　1
　第１節　地理的環境　……　1
　第２節　歴史的環境　……　1

第Ⅱ章　試掘調査（小川）　……　3
　第１節　試掘調査に至る経緯と調査の経過　……　3
　第２節　調査期間・面積及び調査組織　……　3
　　⑴　調査期間・面積　……　3
　　⑵　調査組織　……　3
　第３節　試掘調査の成果　……　4

第Ⅲ章　本調査……　7
　第１節　調査期間・面積及び調査組織（小川）　……　7
　　⑴　調査期間・面積　……　7
　　⑵　調査組織　……　7
　第２節　本調査の成果　……　7
　　⑴　調査区の設定と調査の方法（小川）　……　7
　　⑵　層位（小川）　……　10
　　⑶　出土遺物（本多）　……　12
　　⑷　小結（小川）　……　13

# 挿 図 目 次

第１図　大坂遺跡位置図　……　2
第２図　深江町代表遺跡位置図　……　2
第３図　試掘坑配置図　……　5
第４図　試掘坑１・２土層実測図　……　5
第５図　試掘坑３～５土層実測図　……　6
第６図　調査区配置図　……　8
第７図　Ⅴ層上面平面図　……　9
第８図　調査区東壁土層実測図①　……　10
第９図　調査区東壁土層実測図②　……　11
第10図　調査区北壁・南壁土層実測図　……　11
第11図　出土遺物実測図　……　12

# 表　目　次

第１表　土器観察表 …… 13
第２表　石器観察表 …… 13

# 図 版 目 次

図版１　試掘調査写真 …… 17
図版２　本調査写真① …… 18
図版３　本調査写真② …… 19
図版４　本調査写真③ …… 20
図版５　本調査写真④ …… 21
図版６　本調査写真⑤ …… 22
図版７　遺物写真 …… 23

# 第Ⅰ章　位置と環境

## 第１節　地理的環境

南島原市の位置する島原半島は，長崎県の南東部に位置する胃袋状の半島である。半島の北東部沿岸は有明海に面している。西岸は橘湾に面しており，その対岸には長崎半島がある。半島の南側は早崎瀬戸を挟んで天草諸島と対峙する。半島の中心部には雲仙岳と呼ばれる火山群がそびえており，標高1,483m の平成新山を主峰とした20以上の山々がその裾野を四方に広げている。

南島原市は島原半島南東部に位置する，面積約170㎢，総人口46,292人（平成30年８月末時点）の自治体である。遺跡が位置している深江町は，南島原市８町の中で最北部に位置している。深江町は普賢岳の平成噴火によって大きな被害を受けた地域の一つであり，現在普賢岳東斜面を中心とした防災事業が進められている。

大坂遺跡は深江町の標高約170m 地点の斜面地に位置している。遺跡範囲に隣接する北側には中ノ間川が流れる。遺跡範囲から西側約600m の地点には豊富な湧水量で有名な内野水源がある。遺跡の現状は杉などが植林されている山林である。

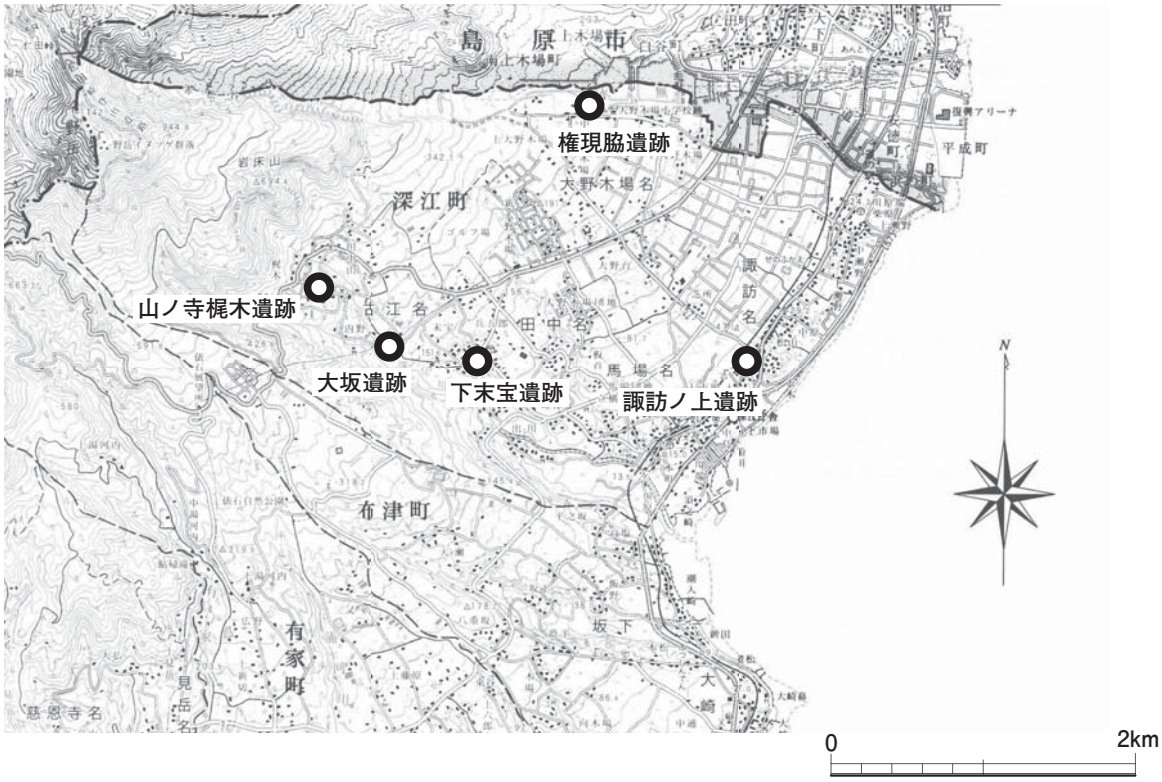
## 第２節　歴史的環境

大坂遺跡周辺には縄文時代の遺跡が豊富に存在する。大坂遺跡から東側約500m の地点には，縄文時代早期の押型文土器が多数出土している下末宝遺跡がある。また，北西に約500m の地点には，縄文時代後期後半から弥生時代早期にかけての土器が多数出土した山ノ寺梶木遺跡がある。山ノ寺梶木遺跡は「山ノ寺式土器」の標識遺跡としても広く知られており，籾痕を残す土器の出土から弥生時代早期の稲作問題に一石を投じた。深江町沿岸部より西側約500m の地点では，近年諏訪地区の圃場整備事業に伴って発掘調査が実施された諏訪ノ上遺跡がある。また大坂遺跡から北東に約２km 進んだ地点には，雲仙普賢岳噴火災害後の赤松谷川流域の砂防事業に伴い発掘調査が行われた権現脇遺跡がある。権現脇遺跡からは縄文時代早期から近世に至るまで多くの遺構・遺物が確認されている。

深江町域の遺跡の特徴として，およそ１万年前に活発であったとされる雲仙の火山活動が大きく影響している。噴火によって発生した土石流が深江町全域に堆積しており，現在旧石器時代の遺跡は確認されていない。縄文時代前期・中期の資料も殆ど確認されておらず，普賢岳や眉山の火山活動に起因するものと考えられている。今回の大坂遺跡の調査では，縄文時代早期と縄文時代後・晩期の土器が確認されている。

［参考文献］　長崎県教育委員会　1997　『原始・古代の長崎県　資料編Ⅱ』
本多和典編　2004　『下末宝遺跡・上畦津遺跡』深江町文化財調査報告書第１集　深江町教育委員会
本多和典編　2007　『権現脇遺跡』南島原市文化財調査報告書第１集　南島原市教育委員会

第１図　大坂遺跡位置図（S＝1/200,000）




第２図　深江町代表遺跡位置図（S＝1/50,000）

# 第Ⅱ章　試掘調査

## 第１節　試掘調査に至る経緯と調査の経過

南島原市深江町字大坂において，市建設部建設課により市道川原新切線道路改良事業が計画された。計画は主に現状の道路の拡幅を行うものであった。事業計画地は周知の埋蔵文化財である内野遺跡の隣接地であることから，平成29年度に南島原市教育委員会文化財課が調査主体となって試掘調査を実施することになった。

試掘調査は事業予定地内において４ｍ×１ｍの試掘坑を５箇所設けて実施した。掘削は人力によって行い，調査の過程で必要に応じて写真撮影を行った。掘削終了後に土層断面図を作成した。

## 第２節　調査期間・面積及び調査組織

### ⑴　調査期間・面積

試掘調査における調査期間と面積は以下のとおりである。

調査期間　平成29年５月22日　～　平成29年５月30日
調査面積　20㎡（４ｍ×１ｍの試掘坑５箇所）

### ⑵　調査組織

平成29年度試掘調査における調査主体及び調査担当は以下のとおりである。

調査主体

| | | |
|---|---|---|
| 南島原市教育委員会 | 教育長 | 永田　良二 |
| | 教育次長 | 深松　良蔵 |
| | 文化財課長 | 松本　慎二 |
| | 文化財課文化財班長 | 木村　岳士 |

調査担当

| | | |
|---|---|---|
| 南島原市教育委員会 | 文化財課文化財調査員 | 酒井　希望 |

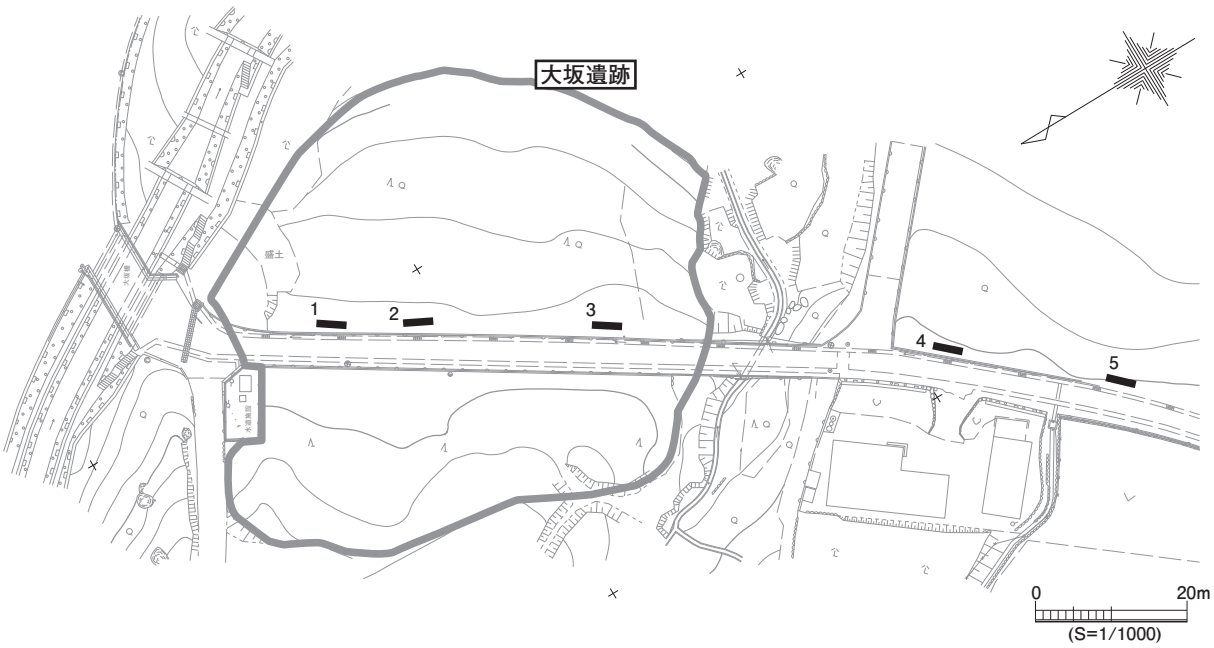
## 第３節　試掘調査の成果

試掘調査における基本土層は以下の通りである。雲仙東麓の深江町域では，これまでの権現脇遺跡を始めとした発掘調査のデータの蓄積により基準土層がほぼ固まっており，今回の大坂遺跡の堆積状況もその成果に矛盾しない。よって層位呼称については，深江町域の代表的な遺跡である権現脇遺跡に準じた。

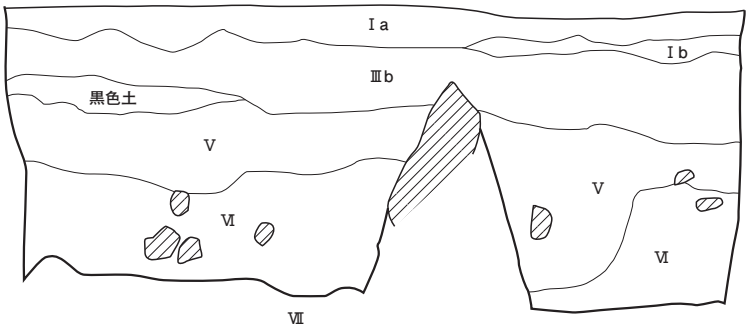
Ⅰａ層　灰黄褐色土。表土。
Ⅰｂ層　暗オリーブ褐色土。廃棄物を含む造成土。
Ⅲａ層　黒褐色土。縄文時代の遺物包含層。
Ⅲｂ層　にぶい黄褐色土。縄文時代晩期の遺物包含層。
Ⅴ　層　黄褐色土。縄文時代早期の遺物包含層。
Ⅵ　層　黒色土。
Ⅶ　層　にぶい黄色砂礫層。

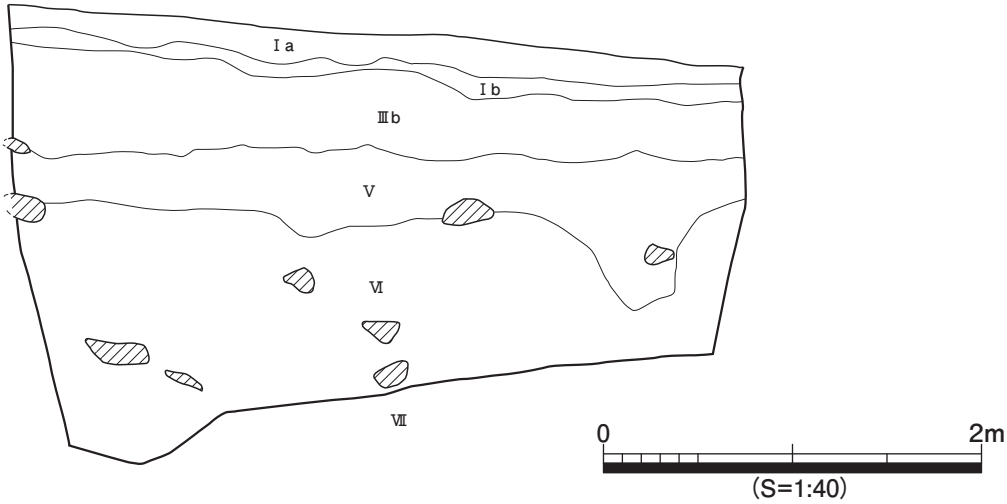
調査の結果，主に試掘坑１～３のⅢｂ層において遺物の出土が確認できた。特に試掘坑３においては縄文時代晩期の土器片が複数出土しており，石器も数点出土した。また，同試掘坑からは縄文時代早期の土器片も出土した。

以上の成果から，試掘坑１～３において遺物が良好な状態で残存していたため第３図の太線で示す範囲を新規に「大坂遺跡」として登録した。またそれを踏まえ事業計画地範囲内のうち遺跡の範囲内においては本調査が必要であると判断した。



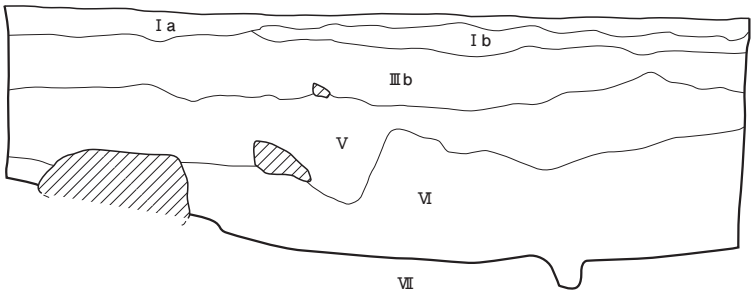

第 3 図　試掘坑配置図（S＝1/1000）



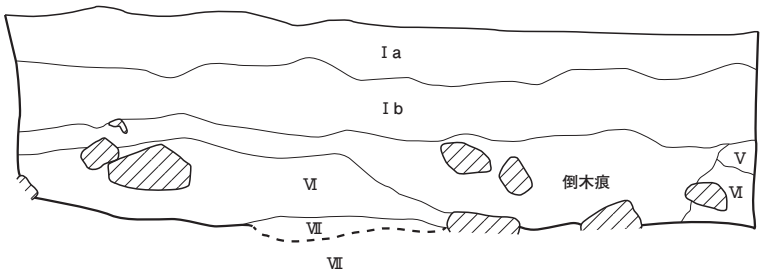




第 4 図　試掘坑 1 ・ 2 土層実測図（S＝1/40）

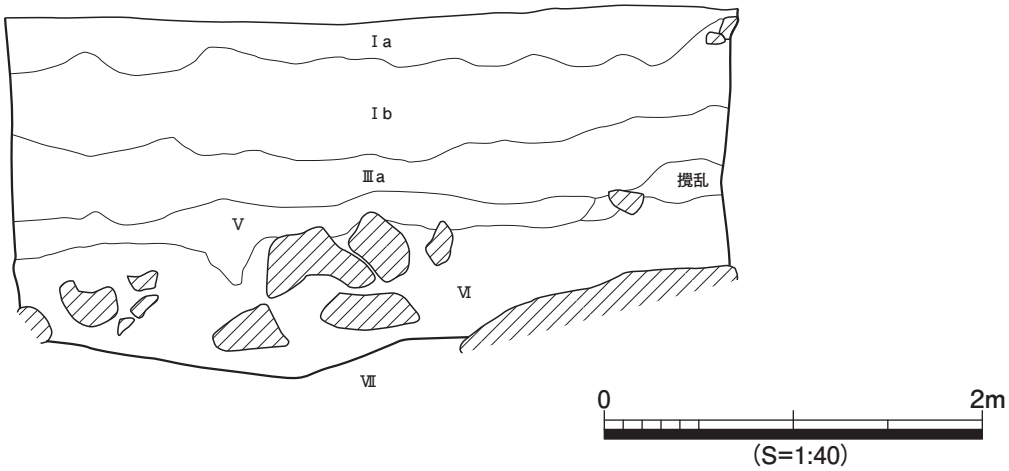
## 試掘坑３　東壁　　L=174.000m




## 試掘坑４　東壁　　L=175.500m




## 試掘坑５　東壁　　L=175.500m




第５図　試掘坑３～５土層実測図（S＝１/40）

# 第Ⅲ章　本調査

## 第１節　調査期間・面積及び調査組織

### ⑴　調査期間・面積

本調査における調査期間と面積は以下のとおりである。

調査期間　平成30年４月23日　～　平成30年５月21日

調査面積　73.85㎡

### ⑵　調査組織

本調査における調査主体及び調査担当は以下のとおりである。

調査主体

| | | |
|---|---|---|
| 南島原市教育委員会 | 教育長 | 永田　良二 |
| | 教育次長 | 深松　良蔵 |
| | 文化財課長 | 松本　慎二 |
| | 文化財課文化財班長 | 末永　　透 |

調査担当

南島原市教育委員会　　文化財課文化財班　主事（学芸員）　小川　慶晴

## 第２節　本調査の成果

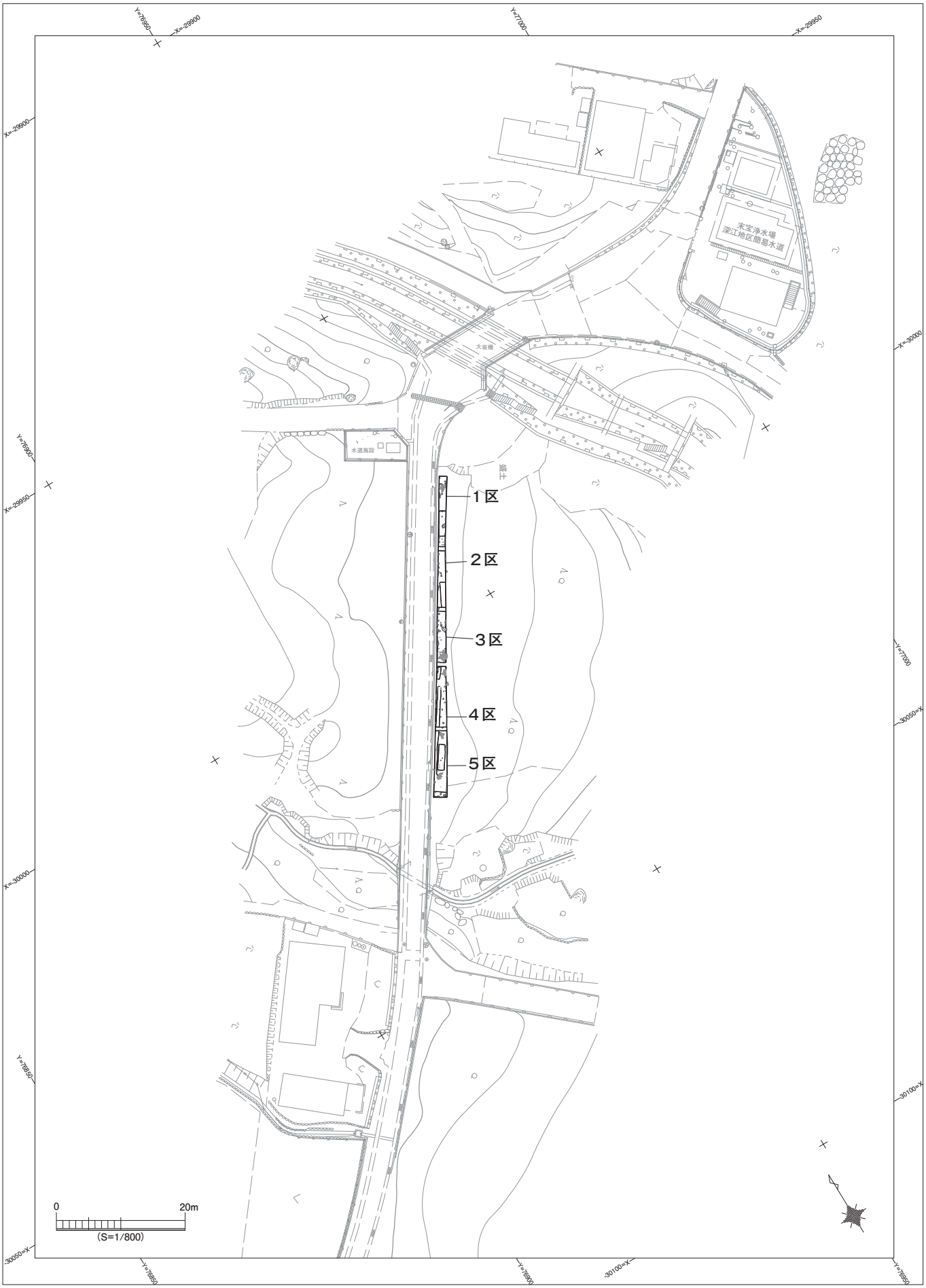
### ⑴　調査区の設定と調査の方法

試掘調査の結果に基づき，道路改良事業予定の前年度である平成30年度に本調査を実施した。

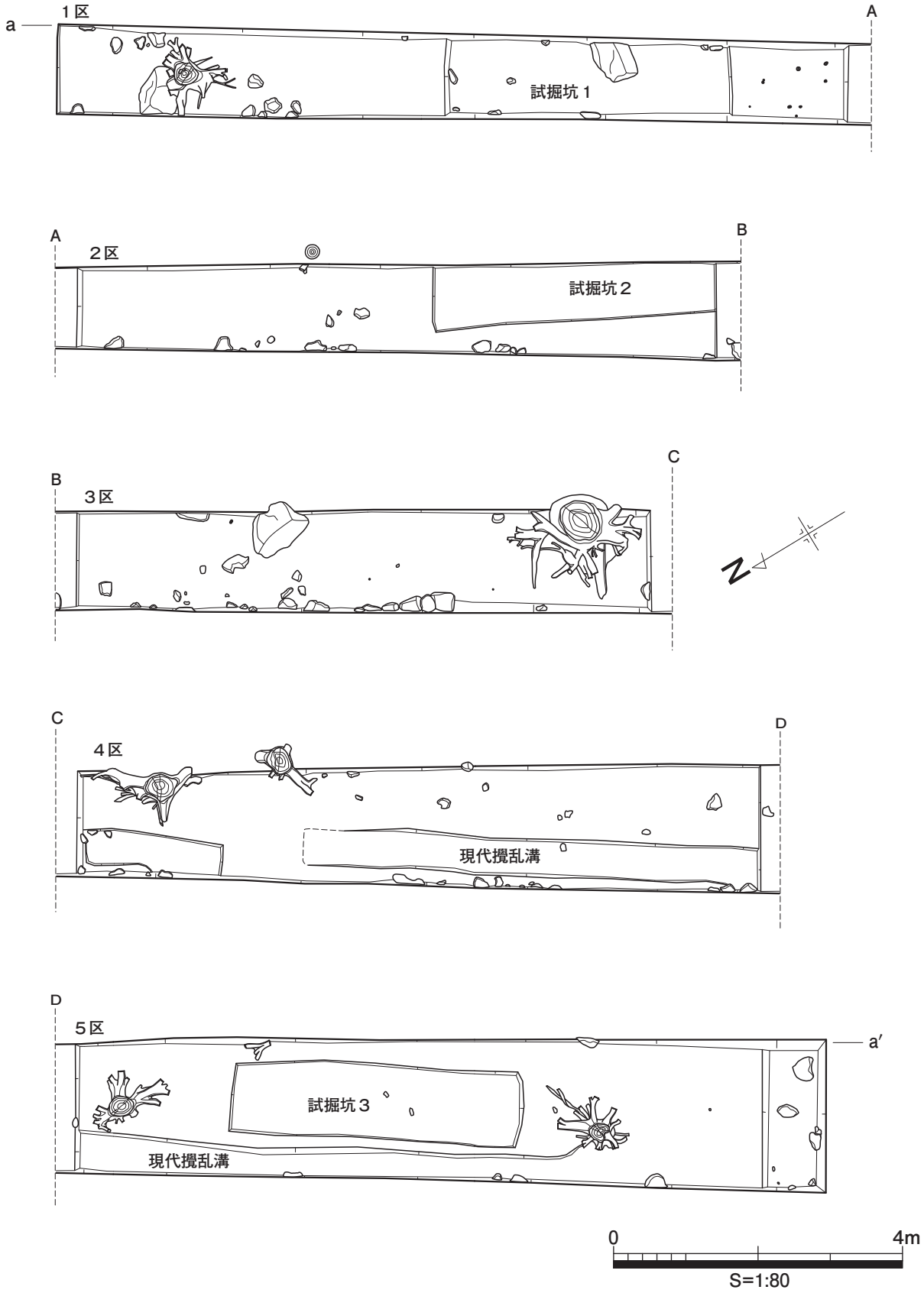
まず調査に着手するにあたり，市建設課の協力を得て調査範囲周辺の樹木の伐採を行った。その後調査区を設定し，土層確認用ベルトを東西方向に４本任意に設定した。それによって分けられた範囲を北東から順に調査区番号１～５区とした。ベルトは当初約10m 間隔での設定を想定していたが，調査区内に点在する切株等の位置と重なるため任意の設定とした。

掘削調査にあたっては，調査区ごと，層位ごとに遺構・遺物を確認しながら人力によって行った。掘削はⅤ層上面まで行った。遺構についてはⅢｂ層上面，Ⅴ層上面において精査を行ったが，確認されなかった。遺物の取り上げは調査区ごと，層位ごとに行った。調査区東壁,5区南壁及び各調査区間のベルトについては土層実測図を作成し，堆積状況の記録を行った。

本調査完了後は次年度に控えている道路改良事業の関係で，一部掘削深度の深い箇所のみ埋め戻しを行い，事業主体者への引き渡しを行った。




第６図　調査区配置図（S＝1/800）



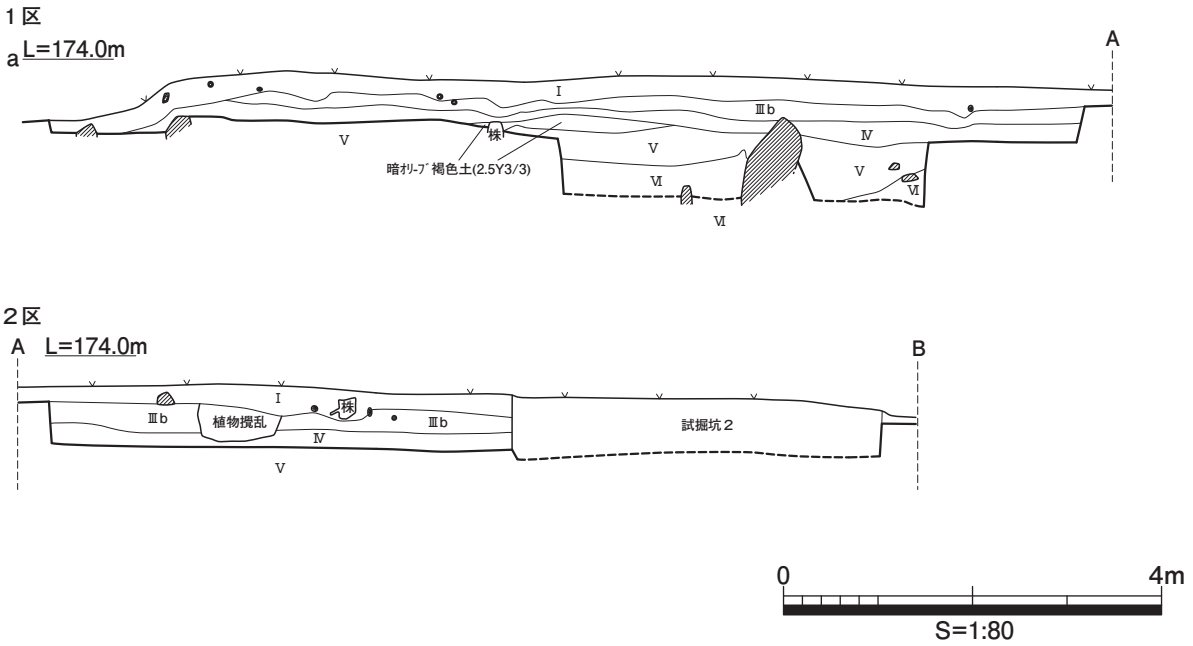

第７図　Ⅴ層上面平面図（S＝1/80）

### ⑵　層位

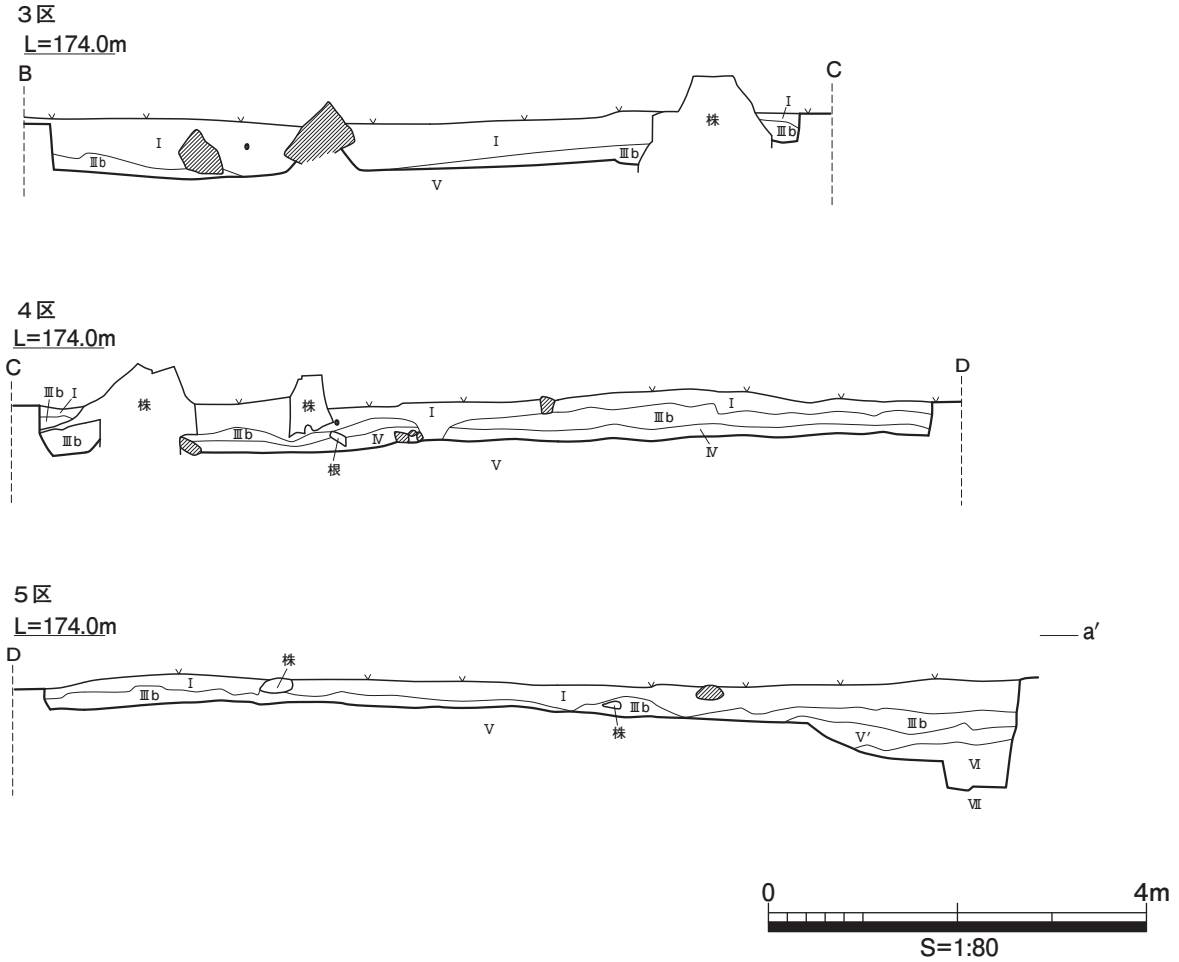
本調査における基本土層は以下の通りである。層位呼称については，試掘調査における層位呼称と同じく深江町域の代表的な遺跡である権現脇遺跡に準じた。

Ⅰ　層　黒褐色土。現代の廃棄物を多く含む。
Ⅲｂ層　にぶい黄褐色土。粘性あり。砂質を僅かに含む。
Ⅳ　層　明黄褐色火山噴出物。権現脇火砕サージ。
Ⅴ　層　褐色土。粘性あり。砂質を僅かに含む。
Ⅴ’層　黒褐色土。Ⅴ層が植物攪乱を受けて変色した土。
Ⅵ　層　暗褐色土。粘性あり。砂質を僅かに含む。～５mm 大の礫を５％，人頭～１ｍ大の礫を稀に含む。
Ⅶ　層　にぶい黄褐色砂礫層。

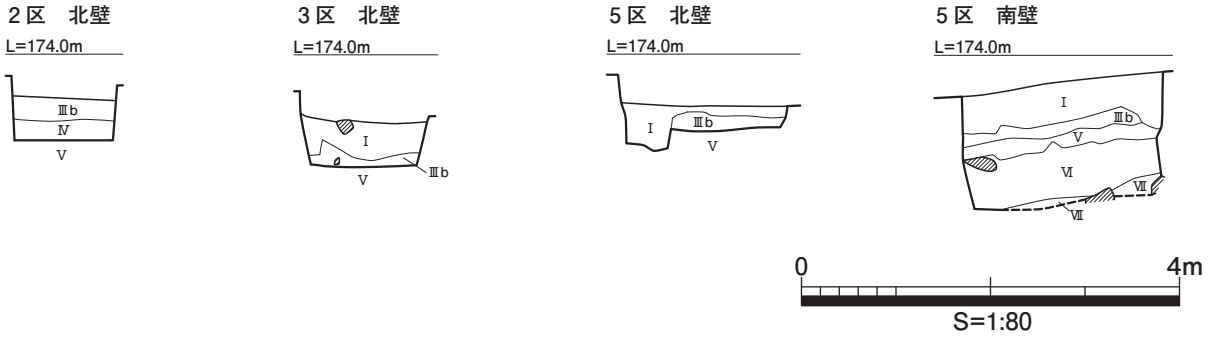
今回の調査ではⅢｂ層・Ⅴ層において遺物を確認し，遺構は確認されなかった。また，試掘調査の段階においては認識出来なかったが，今回調査のⅣ層が眉山火山活動の噴出物である権現脇火砕サージによって堆積したものと考えられる層であることを確認した。




第８図　調査区東壁土層実測図①（S＝１/80）




第９図　調査区東壁土層実測図②（S＝１/80）



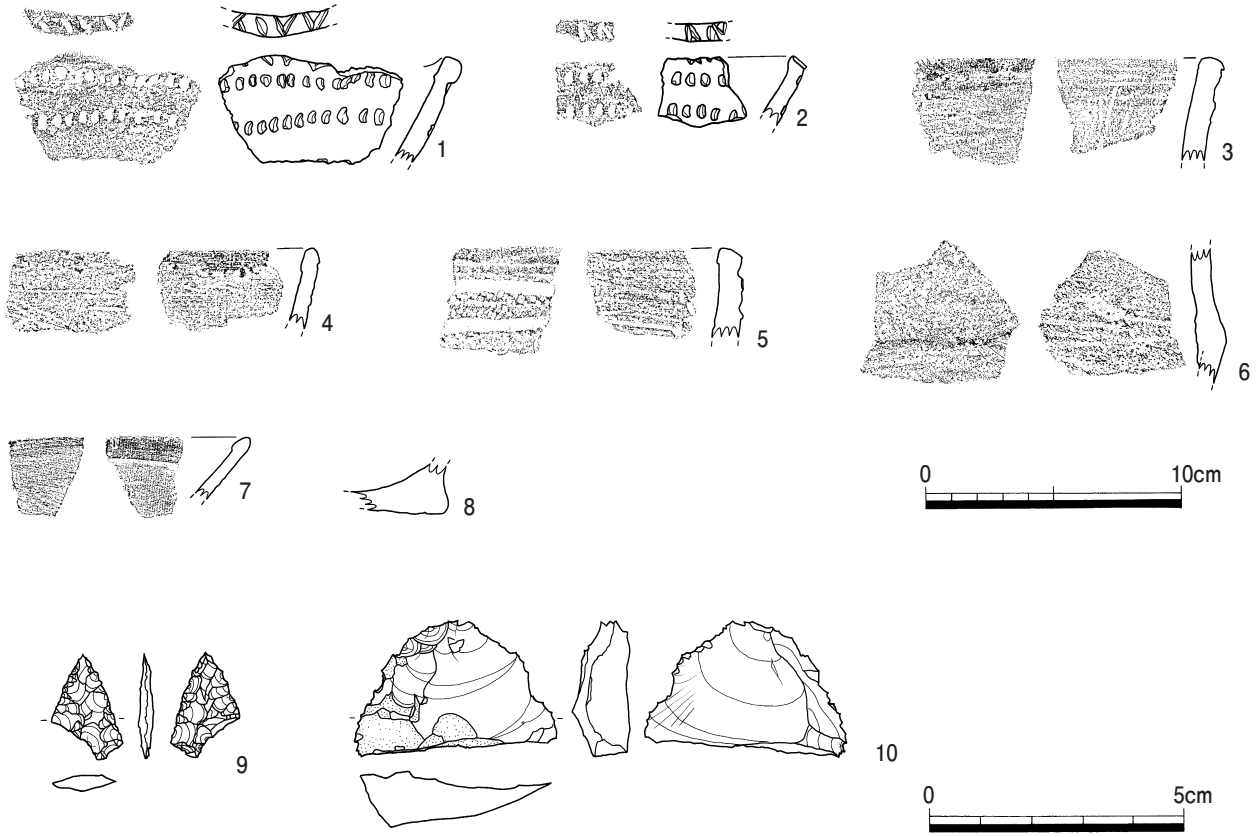

第10図　調査区北壁・南壁土層実測図（S＝１/80）

### ⑶　出土遺物

**1**・**2** は縄文時代早期，塞ノ神式土器の深鉢の資料である。いずれも大きく開く口縁部の部分で，外面には２列の列点文を施し，口唇部上面にはヘラ状の工具による刻目を入れる。**1** は緩やかな波状口縁の頂部である。

**3**～**8** は縄文時代後・晩期に位置づけられる土器群である。**3**～**6** は深鉢の資料である。**5** は外面に縄文を施文し，横方向の沈線を引く。**6** は胴部の屈曲する部分の資料である。**7** は，精製浅鉢の口縁部で，内面を肥厚させて玉縁とする。内外面ともに丁寧に研磨調整を行い，黒色に焼き上げる。**8** は縄文時代晩期に特徴的な，張り出しをもつ深鉢底部の資料である。

**9**・**10**は不純物の少ない良質の漆黒色黒曜石を素材とする石器である。**9** は基部を抉入させた石鏃で，片方の脚部を欠く。**10**は末端部に自然面を残す横長の剥片である。主要剥離面側の左側縁に微細な連続する剥離が認められ，使用によるものの可能性がある。




**第11図　出土遺物実測図（１～８：S＝１/３，９・10：S＝２/３）**

**第１表　土器観察表**

| 番号 | 器種 | 区画 | 層位 | 文様・調整 | | 色調 | | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | |
| 1 | 深鉢 | ４区 | Ⅴ | ナデ，列点 | ナデ | 橙 | にぶい黄橙 | 角閃石・長石・石英 | 口唇部刻目 |
| 2 | 深鉢 | ４区 | Ⅲｂ | ナデ，列点 | ナデ | 橙 | にぶい黄橙・にぶい黄 | 角閃石・長石・石英 | 口唇部刻目 |
| 3 | 深鉢 | ２区 | Ⅲｂ | ナデ，列点 | ナデ | 浅黄 | 浅黄・黄灰 | 角閃石・長石・石英 | |
| 4 | 深鉢 | ４区 | Ⅴ | 貝殻条痕 | ナデ | にぶい黄橙 | 明黄褐 | 角閃石・長石・石英 | |
| 5 | 深鉢 | ５区 | Ⅴ | 縄文，沈線 | 貝殻条痕，ナデ | にぶい黄橙 | 浅黄 | 角閃石・長石・石英 | |
| 6 | 深鉢 | １区 | Ⅰ | 不明 | 貝殻条痕 | 浅黄 | 浅黄 | 角閃石・長石・石英 | |
| 7 | 浅鉢 | １区 | Ⅰ | 研磨 | 研磨 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 角閃石・長石・石英 | |
| 8 | 深鉢 | ２区 | Ⅲｂ | ナデ | ナデ | 明赤褐 | 橙 | 角閃石・長石・石英・赤色粒子 | |

**第２表　石器観察表**

| 番号 | 器種 | 石材 | 区画 | 層位 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 石鏃 | 黒曜石 | ４区 | Ⅲｂ | 2.1 | 1.4 | 0.3 | 0.5 |
| 10 | 微細剥離剥片 | 黒曜石 | ２区 | Ⅲｂ | 2.7 | 4.0 | 1.1 | 8.9 |

### ⑷　小結

今回の大坂遺跡の発掘調査では，遺物資料として縄文時代早期及び縄文時代後・晩期の土器，黒曜石製石鏃・剥片を確認した。遺構は確認されなかった。

また今回の調査で確認されたⅣ層は，権現脇火砕サージを起因とした噴出物の堆積であり，眉山を起点とした火砕サージが大坂遺跡周辺にも影響を及ぼしていたことが分かった。深江町古作遺跡の調査成果において火砕サージ堆積の時期を縄文時代前期轟式土器段階以降から縄文時代後期後葉まで絞り込むことが可能となっており，大坂遺跡の土器の出土状況もサージ堆積の時期を裏付ける資料の一つであると言える。大坂遺跡含む深江町域における人類活動と火山活動との関係は，周辺遺跡との相互関係を検証しながら今後更に明らかにしていく必要がある。


［参考文献］　本多和典編　2004　『下末宝遺跡・上畦津遺跡』深江町文化財調査報告書第１集　深江町教育委員会
本多和典編　2006　『権現脇遺跡』深江町文化財調査報告書第２集　深江町教育委員会
本多和典編　2007　『権現脇遺跡』南島原市文化財調査報告書第１集　南島原市教育委員会
本多和典　2018　『古作遺跡』南島原市文化財調査報告書第10集　南島原市教育委員会

# 図　　版

試掘坑 1　東壁（北西から）

試掘坑 2　東壁（北西から）

試掘坑 3　東壁（北西から）

試掘坑 4　東壁（北西から）

試掘坑 5　東壁（北西から）

試掘作業風景

試掘調査写真

図版 2

調査区設定状況（南西から）

完掘状況（南西から）

完掘状況（北から）

1 区完掘状況（南西から）

2 区完掘状況（南西から）

3 区完掘状況（南西から）

本調査写真①

4 区完掘状況（南西から）

5 区完掘状況（南西から）

1 区東壁土層近景（西から）

本調査写真②

図版 4

1 区東壁土層（南西から）

2 区東壁土層（北西から）

3 区東壁土層（南西から）

4 区東壁土層（南西から）

5 区東壁土層（南西から）

5 区東壁土層近景（西から）

本調査写真③

1 区南壁土層（北から）

2 区南壁土層（北から）

3 区南壁土層（北から）

4 区南壁土層（北から）

5 区南壁土層（北から）

2 区Ⅲｂ層遺物出土状況（西から）

本調査写真④

図版 6

4 区Ⅲ b 層遺物出土状況（西から）

5 区Ⅴ層遺物出土状況（西から）

現代撹乱掘削状況（北から）

作業風景①

作業風景②

測量風景

本調査写真⑤

遺物写真

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | うゥざかいせき |
| 書名 | 大坂遺跡 |
| 副書名 | 市道川原新切線道路改良事業に伴う発掘調査 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 南島原市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第16集 |
| 編著者名 | 小川慶晴，本多和典 |
| 編集機関 | 南島原市教育委員会 |
| 所在地 | 〒859-2412　長崎県南島原市南有馬町乙1023番地　TEL0957-73-6705 |
| 発行年月日 | 西暦2018年９月30日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | ° ′ ″ | ° ′ ″ | | | |
| 大坂遺跡（ううざかいせき） | 南島原市（みなみしまばらし）<br>深江町（ふかえちょう） | 42214 | 159 | 32°<br>43′<br>36.4″ | 130°<br>19′<br>15.3″ | 180423<br>～<br>180521 | 73.85m$^2$ | 市道川原<br>新切線道<br>路改良事業 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大坂遺跡 | 遺物包含地 | 縄文時代 | | 縄文土器<br>石鏃 | |

南島原市文化財調査報告書　第16集

大　坂　遺　跡

2018. 9. 30

発行　長崎県南島原市教育委員会
〒859-2412　長崎県南島原市南有馬町乙1023番地

印刷　合資会社 有正舎

南島原市文化財調査報告書　第16集

# 大坂遺跡

―市道川原新切線道路改良事業に伴う発掘調査―

2018

南島原市教育委員会